

# 東部振興局 「なつほのか」 便り No. 13



令和6年産なつほのか実証ほの  
収量調査を行いました！

令和6年産の調査圃場の収量調査を行いました。収量は昨年  
に比べ約1割減収となりました。夏場に高温が続いたため、  
白未熟粒の発生が懸念されましたが、昨年よりも割合が少な  
い結果となりました。

減収要因としては、分けつ期の日照不足による穂数の減少、  
出穂期～成熟期にかけての水不足による充実不足が考えられ  
ます。

調査圃場	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数
	月.日	月.日	月.日	cm	cm	本/m <sup>2</sup>
杵築市山香町	5.24	8.5	9.9	88	21.3	349
国東市安岐町	6.17	8.14	9.27	87	21	344
国東市国見町	5.24	8.3	9.9	96	24.2	307



調査圃場	玄米重 kg/10a	千粒重 g	白未熟粒(粒数割合%)			
			乳白粒	基白粒	腹白粒	合計
杵築市山香町	553	21.1	0.5	0.4	0.1	1.0
国東市安岐町	634	24.1	0.2	0.3	0.3	0.8
国東市国見町	508	20.7	0.3	0.6	0.5	1.4

3地点で  
調査したよ！！



# 稲刈り後の圃場管理について

稲刈り後に残った稲株や稲藁は、  
**耕起**して**土中**に**すき込み**しましょう。

【効果】

- 土の団粒化を促し、通気性、通水性、保水性が増す。
- 酸素を供給することで、土壌中の微生物が活性化する。
- 微生物が活性化することで、稲株や藁の分解が進み、肥料になる。
- ガス害（田植え後にガスが沸き、根痛み）を減少できる。



稲刈り後のひこばえ

石灰窒素や腐熟促進剤を  
散布するとさらに効果的です。

★さらに、稲刈後の稲株から発生する**ひこばえ**は、放置するとカメムシや他害虫の餌となります。餌が多くあることで、越冬数が増加し、次年度の**カメムシ被害**を助長して**しまう可能性**があります。

稲刈り後は早めの

**耕起**を実施するように心がけましょう！！